

M20754  
白川正太郎  
言葉  
おかし

# 縮こまる社会刺す

## カンカラ三線

東京新聞 夕刊 2020.9.29

「自粛ムード」に「同調圧力」。ああわからない〜ウイルス対策わからない〜。明治・大正期の「演歌（演説歌）」を現代に再現する歌手の岡大介さん(42)は、空き缶で作ったカンカラ三線で、物言えば唇寒しのコロナ社会に寸鉄くらわす。10月4日、ステイホーム中に作った新作を披露する独演会を東京・浅草で開く。(横田晃弘)

抵抗の楽器「仕事なくなつた。創造の原動力に」

### 新型 コロナ

「怒りがあるから、いい歌が生まれる。ぼったり仕事にならなくなったことが、創造の原動力になった」  
演歌場に加え、居酒屋や福祉施設など年間四百回以上ライブをこなしてきたが、緊急事態宣言下の休業要請で四、五月の仕事は、ほぼキ

ヤンセルに。自宅での時間は歌作りに充てた。  
長年、仕事場にしてきた居酒屋が閉店した。家賃負担に耐えられなかったと聞いた。緊急事態宣言は東京五輪の延期が決まってからだ。「本当に深刻なら、なぜもっと早く宣言しなかったのか」と腹が立った。  
コロナ来て五輪がなくなった。飲み屋のあたりがなくなった。俺の仕事がなくなった。  
丸投げ政府の言うことにや〜三つの密が大事だと密議・密約・密会か  
明治生まれの演歌師・添田



「演歌で日本中の人たちを元気にしたい」と話す岡大介さん  
=東京都台東区の浅草本馬亭で

添田 蛭蜂坊 (そえだ・あせんほう) 1872~1944年。神奈川県大磯町生まれ。18歳の時、横須賀で見た演歌師に感動し街頭で歌い始める。33歳で社会主義者の辨利彦と出会い、日本社会党の活動に参加。歌による社会改良を目指した。昭和恐慌がピークの1930(昭和5)年に発表した「生活戦線異状あり」を最後に、生涯に作ったのは約200曲。演歌師の活動を引き継いだ長男の知道(1902~80年)は文筆家としても活躍し、演歌について多くの著作を残した。蛭蜂坊の歌は学園紛争が盛んになった1960年代、フォーク歌手の高田渡さんがカバーしたことで再評価につながった。

### 演歌師・岡大介さん 来月4日 新作を披露

路上でアカペラで歌っていた蛭蜂坊の歌は、ギター伴奏はしつくりしない。そんな時、ミュージシャン仲間がカンカラ三線を教えてくれた。米軍占領下の沖縄で空き缶とパラシュートの糸で作られた「抵抗の楽器」。これだ、と思った。  
二〇〇八年にCDデビュー。一年の東日本大震災では、蛭蜂坊の息子知道が作った「復興節」の替え歌を被災地で歌って回り、注目を集めた。  
コロナ禍で、社会は震災以来の厳しい状況にさらされている。今こそ、庶民の心情を代弁する風刺の出演だと思っが、最近はどうもやりづら。政治批判の歌が以前のように受けられない。  
健康問題を理由に退陣した安倍晋三前首相を笑いのタネにするのは「不謹慎」と思われているようだと思っが付いた。それで、こんな言い回しを考えた。「みんな、安倍さんのこと大好きなんですね。だから早く

元気になってほしいですね。団会で説明責任を果たしてもらうために」。緊張が緩んだ客席から、どどどと笑いが起きた。  
菅義偉首相の誕生に、意外性は感じなかった。「安倍政権の実体は菅政権」と思っていたからだ。「安倍政治が継承されるのなら、安倍政治の風刺の歌も継承です」。菅内閣の顔触れを見ていたら「オッペケペー節」の替え歌ができた。  
七年ついでに入九月にお疲れさんといいたいが、モリカケサクラはどこへやら同じ顔触れ甘々党/スツカラ政治の幕開けた  
岡大介独演会「ウイルス戦線異状あり!」ヨワツタネー添田蛭蜂坊と馬場文研  
「反菅菅能歌合戦」は、浅草本馬亭で十月四日午後六時開演。講師の神田香陽さんがゲスト出演し、江戸時代の言論弾圧で処刑された講師について紹介する。  
チケットは三千円(前売二千五百円)。問い合わせは、浅草本馬亭(電話03(3844)6293)。